

7月28日

受け継ぎ伝える DNA



■育てられ、育てていく

朝の8時だというのに、外はもう蒸し暑い。まだ誰も来っていないオフィスで、パソコンを立ち上げてメールをチェックしていると、背後でドアが勢いよく開いた。時計の針は8時5分になろうとしている。

「遅れてすみません！」

ハンカチで首筋を拭いながら飛び込んで来て頭を下げたのは、今月から神戸支店に配属されたばかりの新人だ。よほど慌てて走って来たのか、額に汗が光っている。

「教えを請う立場なのに遅れてどうする。やる気がないなら、早朝勉強会、明日からやめてもいいんだぞ」と喝。

新人のSPになって約1カ月。気がつくと、自分がお世話になった先輩と同じ口調になっていた。そういえばこの前、飲みに連れていったとき、



「ボクって営業に向いてないんじゃないか」としょげていた。今夜あたり、飲茶が旨い南京町のあの店で、中華料理でもご馳走してやるか。

会社には、同じ職場の先輩社員がマンツーマンで1年間、親身に新人社員の面倒を見るSP制度がある。SPとは先輩「SENP AI」の略。みずからSPをやりたいと手を挙げたわけではない。けれど、リーダーグカンパニーの社員たるDNAを先輩から受け継いだ者は、後輩に伝えていく義務があると誰もが思っている。新人の姿に、4年前の自分がオーバーラップした。いまは東京の本店にいるあの先輩の声が、久しぶりに聞きたくなった。